

# 愛知県五条川源流部における国内外来魚 オヤニラミの生息密度および駆除

\*中里将之・伴野裕尚・谷口義則（名城大・理工）

## 1. はじめに

オヤニラミ (*Coreoperca kawamebari*) とはスズキ目ケツギョ科の淡水魚である。本州の保津川・由良川以西, 四国北部, 九州北部に自然分布しているが, 本来分布していないはずの東京都や愛知県, 滋賀県等で確認されている。小型魚類や陸生・水生昆虫, 甲殻類を餌とする肉食性であり, 縄張りを持ち, 攻撃的であることから在来魚に負の影響を及ぼす可能性がある。そのため, 愛知県では「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」により移入種として規制対象に選定された。

2004 年頃から愛知県犬山市の五条川源流部において, オヤニラミの生息が確認されているが, 従来からオヤニラミが生息すると考えられてきた流程内 (約 2.1km) における生息状況と駆除努力量, 物理環境との関係が明らかにされていない。よって, 本研究では上記流程内全域に調査区を設け, オヤニラミの生息状況, オヤニラミの駆除に必要な努力量, 物理環境との詳細な関係を明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

愛知県犬山市の入鹿池に流入する五条川源流部を調査地とし, 河川の縦断方向 50m を 1 区間とする計 40 区間の調査区を設け, 魚類及び物理環境の調査を行った。また, 夏季に下流端堰堤から上流端堰堤付近までの約 2.0km 区間を調査し, オヤニラミの駆除を行った。秋季に, オヤニラミが残っていないか確認するため, 下流端堰堤から 800m ほど離れた場所にある堰堤までの間で新たに 5 区間を設け, それぞれ夏季調査区間, 秋季調査区間とした。

電気ショッカーを用いた 2 パス除去法により魚類を採捕し, 体長・体重を計測した。さらに, 水深, 流速, 河床材料径等の物理環境を計測した。

## 3. 結果

魚類調査の結果, 16 種類の魚類が採捕され, オヤニラミは夏季に 35 カ所中 19 カ所で 95 個体, 秋季に 5 カ所中 4 カ所で 19 個体の計 114 個体が確認された。また, オヤニラミの多くは下流端堰堤から 800m ほど離れた場所にある堰堤付近で確認され, キャンプ場付近の堰堤の上流側では確認されなかった。体長は平均 4.8cm, 最大 10.1cm, 最小 1.7cm であった。平均個体数密度, 平均重量密度はそれぞれ 1.05 個体/100m<sup>2</sup>, 3.15g/100m<sup>2</sup>であった。各物理環境要因とオヤニラミの個体数密度の間に有意な相関関係が認められなかったが, 114 個体中 112 個体は川岸や水中に繁茂している陸生・水生植物付近で確認された。

## 4. 考察

本研究の結果, オヤニラミは下流端堰堤から約 1350m 離れた場所まで, 幅広い区間で確認された。1.6~2.0cm の当歳魚と推定される個体から, 10cm を超える成魚個体まで幅広い体サイズが確認されたことから, 本河川で自然繁殖していると推測できる。また, オヤニラミの駆除を行い 95 個体駆除したが, 駆除確認調査をしたところ新たに 19 個体確認されたため, 本種の根絶は電気ショッカーを用いた 2 パス除去法では困難であると考えられた。

各種物理環境要因とオヤニラミの個体数密度の間で相関関係は認められなかったが, ほとんどのオヤニラミは流れが緩やかな河岸や水中に繁茂している植生付近で確認されており, 西日本でも同様の場所に生息が確認されている。今後は流れが緩やかで繁茂した植生付近を中心に駆除作業を 3 パス以上の除去および複数年継続して実施することが望まれる。